令和５年度　印旛地区教育研究集会

国語科「話すこと・聞くこと」分散会提案資料

研究主題

互いの思いや考えを主体的に伝え合う児童の育成

～相手にわかりやすく伝えたり，内容を理解しながら聞いたりする活動を通して～

印西市立船穂小学校

研究の概要

1　研究主題

互いの思いや考えを主体的に伝え合う児童の育成 ～相手にわかりやすく伝えたり，内容を理解しながら聞いたりする活動を通して～

2　主題設定の理由

（1） 学習指導要領から

小学校学習指導要領の改訂では，予測困難な社会の変化に主体的に関わり合う知・徳・体の調和を重視する「生きる力」の育成が示されている。子どもたちが学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し，これからの時代に求められる資質・能力を身に付け，生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには，学習の質を一層高める授業改善の取り組みを活性化していくことが重要である。また，学習指導要領で提唱されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められている。

国語科において育成を目指す資質・能力は，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱として示されている。理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び技能」として身に付けるために，思考・判断し表現することを通して育成を図ることが求められるなど，「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力」は相互に関連し合いながら育成されることが必要である。

また，「思考力，判断力，表現力」の内容のＡ「話すこと・聞くこと」の指導事項をもとに，本校では各学年やブロックで話し合い，目標を作成した。

	話すとき	聞くとき
低学年	伝えたいことをはっきと決め，声の強弱や速さを考える。	相手が何を伝えようとするのかを考え，感想をもつ。
中学年	目的に合った話題を考え，話の中心をはっきりとさせる。	話の中心を聞き取り，自分の考えをもつ。必要なことは記録する。
高学年	事実と感想，意見を区別して話の構成を考える。	話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる。

「話すこと」では，イ構成の検討・考えの構成とウ表現・共有，「聞くこと」では，エ構成と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有の内容を受けたものである。

これらを踏まえ，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い，互いの思いや考えを主体的に伝え合っていく態度を養っていきたい。

（２） 学校教育目標から

本校の学校教育目標は下枠のとおりである。

変化する時代を見すえ，たくましく生きる心豊かな児童の育成 㐂……深く考え確かな学力のある子（知育） 㐂……仲よく思いやりのある子（徳育） 㐂……朗らかで健康なたくましい子（健康体力）

学校教育は，次代を担う児童の育成を行う場であり，変化する時代を見すえて，たくましく生きる力を身につけさせていかねばならない。

また，本校では小規模校の良さを生かして教師の支援により，児童一人一人がわかる授業の展開を目指すことで，学習意欲の向上を図ることを重点としている。また，学力を定着させるにあたり，すべての教科の学習活動に通じる国語科の知識や技能の習得は大切であると考える。子どもたちが進んで学習に取り組み，相手意識をもって話す活動や聞く活動に取り組むことで，他者への思いやりをもち，深く考える姿勢が身に付き，本校の学校教育目標につながると考える。

（３） 児童の実態から

本校は全校４８名の小規模校であり，通常学級が５学級（３・４年生は複式）と特別支援学級２学級で，昨年度創立１５０周年を迎えた歴史と伝統のある小学校である。１５０周年記念式典では，保護者や地域の方々の協力が大きかった。クラス替えがなく，子どもたちは互いの様子をよくわかっており，縦割り活動が日々の学校生活の中に浸透しているので全校児童で仲が良い。

本年度より印西市の小規模特認校となったが，昨年度の移行期間から市内の学校からの転入生が急激に増え，全校の３分の１に及ぶ。元から在籍する児童は転入生を快く受け入れて仲良く学校生活を送っている。

本校の課題としては，少人数の中での生活であるため，短い言葉で話しても多くが通じてしまうこと，話し合いの深まりや広がりが弱いこと，また転入児童たちのコミュニケーション能力が弱いことなどがあげられる。

また，国語科の児童アンケートによると「人前で発表することは苦手」「うまく整理して話せない」のように，話すことへの抵抗感や不安が見られ，令和５年度の学力検査では「話すこと・聞くこと」の領域で平均点を下回った学年が見られた。

今後，中学校に進学し，将来社会に出て行くときに，上手にコミュニケーションがとれ，相手や目的に応じて，わかりやすく表現したり聞いたりする力は，変化していく時代にとても大切になる。自分本位に話すのではなく，相手のために話し方を考える，そして聞いたことに対して自分の意見がもてるような児童を育成していきたい。

以上をもとに，相手にわかりやすく伝える話し方を身に付けたり，内容を意識して聞いたりする児童を育成するために，本主題を設定した。

３　研究仮説

【仮説】

相手や目的・条件を踏まえて話したり聞いたりする場を設ければ， 内容を理解して聞いたり話したりできるだろう。

「相手」とは，話したり聞いたりする活動では，相手のことを思いやる「相手意識」と，相手の様子や状況を考える「相手本位」で話そうとすること。

「目的」とは，学習の目的に必要性を感じ，話題を見つけたり資料を探したりして，解決すること。

「条件」とは，話題の中心，話す場所，話す時のツール，発表時間，話し方，聞く人の人数などを考えて話すこと。

【研究仮説について】

短い言葉で話しても通じてしまったり，話し合いの深まりが弱いという児童の実態を踏まえ，「自分の考えを伝え合う力」の育成には，相手を意識して話したり，必要性をもって聞いたりすることが大切である。そのために本校では，話すこと，聞くこと，教材や教具の工夫の３つにそれぞれ手立てを立て，学習活動の中に組み入れながら実践を積み重ねてきた。

【手立て①　話すこと】　　**５つの言語意識**

話すための意識をもたせる。

１　相手意識（誰に）

・学級の友だちに，○年生に，全校児童へ，他校の児童へ　等，話す相手を明らかにする。

２　目的意識（何のために）

・「○○のよさを○○に伝えよう」など，学習のゴールを明らかにした単元構成にする。教師による見本や仕掛けから学習をスタートさせる。

３　場面意識（こんな時にはどう伝える）

・ペアや学級で伝え合い，児童同士の関わりの中でよりよい表現を求めていくようにする。

タブレットの活用

４　方法意識（どうやったらうまく伝える）

・ロイロノートの付箋機能，思考ツールを使ってメモの構成を考え，改善し，話し合い，順序や目的に合う内容を考える。自分の話し方を可視化することで，客観的に捉えたり，新たな課題を発見したりすることができると考える。

５　評価意識（言いたいことが伝わっているか）

・子どもによる評価……ペアでアドバイスを行う。アドバイスの観点をはっきりさせる。

・教師による評価……特に支援が必要なペアを把握しておき，そのペアを中心にアドバイスし合う様子を記録し，支援する。活動の様子をビデオに撮り，評価に生かしていく。次時へとつなぐワークシートの活用。

【手立て②　聞くこと】

聞いたことに対して，自分の考えや感想をもてるように，学習活動を工夫する。

・「相槌」を打つ。
各教室にある「あいづち　あいうえお」を元に，話し手に対して相槌を打ち，意思表示をすると共に，集中して聞くようにさせる。

・「５Ｗ１Ｈ」（いつ，どこで，だれが，何を，なぜ，どのように）
各学年に応じた質問の仕方を例示する。教室に掲示したものを参考にさせる。

・「相互指名」をする。
交互に発表と感想を言い合うようにさせる。事前にいくつかの観点を示しておく。

・「よかった点」を見つけて感想に繋げる。
説明の仕方や内容で，よかった点を見つけ合うようにさせ，意見交流の楽しさを味わわせるようにする。

タブレットの活用

・「ロイロノートの録音機能」を活用する。
自分の発表を自分で聞き，それぞれの観点（声の大きさ，速さ，間の取り方，話の中心，内容，順序　等）に照らし合わせて，改善する。

・「ペアによる聞き合い」
録音した発表をペアの児童と互いに聞き合い，感想や意見を交換させる。

・「情報の整理」として活用する。
情報を整理してツールを活用し，意見や質問を考えさせる。

【手立て③　教材・教具など】

子どもが意欲的に取り組める教材教具や活動の場の工夫をする。

・「活動の場の工夫」をする。
教室の半分や一角を練習スペースや発表の場として分けて設定し，活動内容に応じて児童が行き来できるようにさせる。

・「絵・写真・紙芝居」を活用する。
話の内容理解や観点の提示のために，話の元となる写真や絵やポイントの提示をする。学習意欲の維持向上や，話すとき・聞くときの改善に繋がるようにさせる。

・「小道具」を活用する。
役割をはっきりさせる，内容理解を深める，想像力を膨らませるとき等に，お面やペープサート，実物の物などを活用する。

4　指導の実際【１年生】

１．単元名　　デジタルかみしばい「何を話しているのかな」
（主な学習材「えを見ておはなししよう」）

２．つけたい力　　話すのに必要な情報を正しく読み取ったり，活用したりする力を児童に身に付けさせ，会話を通して人と豊かに関わる力。

３．言語活動　　デジタル紙芝居をつくろう

【手立て①　話すこと】

話すための意識をもたせる

本単元では，「デジタル紙芝居作りを通して，登場人物の立場で話題を見つけ，それぞれの言葉を考えて話す。」という言語活動を設定した。

始めにそれぞれのうさぎの特徴を話し合い，特徴をもとにそれぞれのうさぎに名前を付けてなりたいうさぎを決めた。次に，家族構成や場面の状況をもとに自己紹介を考え，全体で共有することで，それぞれの立場でどんなことを話したいか考えられるようにした。

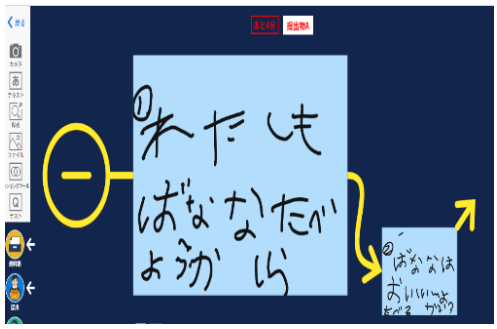
タブレットの活用

ロイロノートの付箋機能を活用して，話題にしたいことや思いついたこと，伝えたいことをメモしていくようにしたが，タッチペンによる手書き機能の活用で，１年生でも手軽にメモをたくさん書いたり，メモが自動保存されることから，作ったメモを次時の活動に活かしたりすることができた。

ぴょんちゃんにバナナを食べさせてあげようとしているみたいだね。

↑　タッチペンで,気が付いたことをもとに，話している言葉をどんどん書き出す。；

おばあちゃんにもらったバナナがおいしかったから「ありがとう。」も入れよう。



【手立て②　聞くこと】

聞いたことに対して，自分の感想や考えをもてるように，学習活動を工夫する。

メモをもとに，会話の内容をロイロノートの録音機能を活用して記録し，確かめることができるようにした。会話をする相手と一緒に聞くことで，いいなと思う会話を選んだり，場面にぴったりだと思う会話について意見交換をしたりすることができた。絵がないと，会話を続けても内容と離れていってしまうので，必ず絵を見ながら話したり，聞いたりできるようにした。

相談しながら会話を選ぶことができていたが，それを選んだ根拠までは話すことは難しかった。また，全体で会話の内容を共有した際も，グループの発表を聞くことにとどまり，聞いたことをもとに意見交換をしたり，見直しを行ったりすることは，十分とは言えなかった。導入の段階の自己紹介で，特徴や性格についても話し合っていたので，聞き手もそれらをもとに聞けるよう聞く視点をしっかりもたせる必要がある。聞く視点を明確にして聞き，意見交換をしていくことは今後の課題である。

↑　どの会話がぴったりか，ともだちとメモをもとに話し合う。決まったら練習をする。

【手立て③　教材・教具】

子どもが意欲的に取り組めるような教材教具や活動の場の工夫をする

本単元では，ひとつの場面から楽しく想像を膨らませて話ができるよう，学習者の目的はデジタル紙芝居を完成させ，他学年の友達に発表することとした。ある朝，森の中から楽しげな声が聞こえてきたのでのぞいて見ると，うさぎの家族が楽しそうに朝ご飯を食べているという設定である。会話の場面がひとつひとつクローズアップされていくので，その場面の会話を考える。紙芝居を完成させるという共通の目的があるので，力を合わせて取り組み，ひとつのものをみんなで作り上げる達成感があった。

お面を活用したことも，最後まで役割をはっきりさせて取り組めるひとつの手立てとなった。会話を考えるときも，話し方を考えるときにも役立っていたので，　お面の活用は大変有効であった。

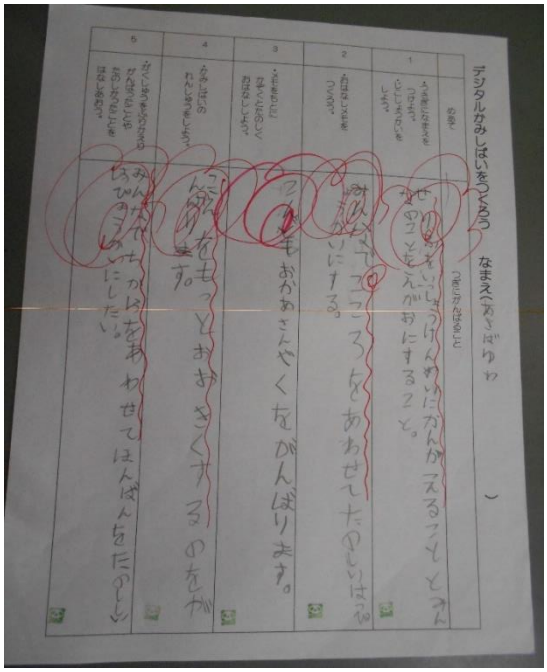
また，本校は少人数ということもあり，話し合いのスペースを，個々の活動の場と，全体で活動する場と分けることができた。この場の設定も，活動をスムーズに進めるのに大変有効であったと考える。今後も，必要に応じて場の効果的な設定を考えていきたい。

教室の後ろ半分のスペース

全体で話し合う時は，後ろのスペースに集まる。
デジタル紙芝居を行う時も，このスペースで。

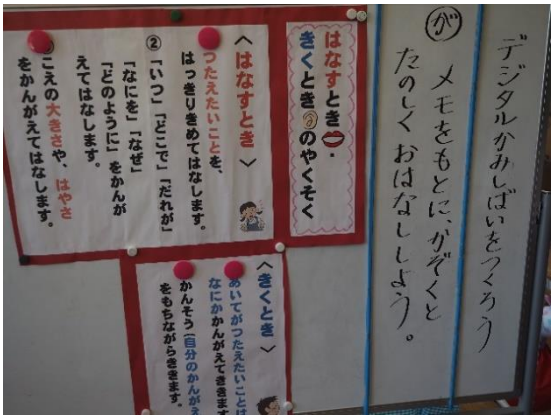
おばあちゃん，お話をもう少し増やしてもいいかな。

みんなでもう一回順番にお話ししてみよう。

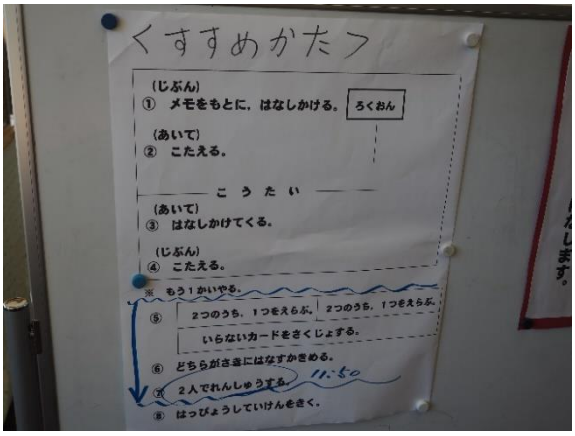


← 振り返りカードは，反省を書くだけではなく，気付いたことや，次回はどのようにしたいか等を書くようにすることで，見通しがもてる。

振り返りカードは，自分の席で



話し合いの空間にある学習問題や約束



話し合いの進め方を明示

ある朝，森の中から楽しげな声が聞こえてきました。

デジタル紙芝居

想像を膨らませながら，話をしたり聞いたりすることができるようにした。

☆学習の成果

【児童の変容】

内容	A 女子	B 男子	C 女子	D 男子	E 男子	F 男子	G 女子
1 友達の前で発表することはすきか	○ ↓ ○	△ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○
2 友達の話を聞いてわからないことは質問しているか	△ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	△ ↓ ○	○ ↓ ○	△ ↓ △	○ ↓ ○
3 情報を正しく捉え活用している。（正当数／5 問）	（0／5） ↓ （2／5）	（0／5） ↓ （5／5）	（0／5） ↓ （3／5）	（1／5） ↓ （5／5）	（2／5） ↓ （4／5）	（2／5） ↓ （4／5）	（0／5） ↓ （2／5）
4 想像したことを言葉で表現している（正当数／5 問）	（3／5） ↓ （4／5）	（0／5） ↓ （4／5）	（2／5） ↓ （3／5）	（2／5） ↓ （3／5）	（2／5） ↓ （3／5）	（1／5） ↓ （3／5）	（4／5） ↓ （3／5）

○No.1 の結果から，場の設定を工夫することや，クロームブックの活用により，どの児童も楽しみながら言語活動に取り組むことができた。(手立て③)

○No.3・4 の結果から，話すことに必要な情報を集め，それをもとに自分の考えをもつことができるようになったことがわかる。これは，視覚から得た情報を話し合う場を設けることにより身に付いてくるものと考える。特に B 男子については，学習前はほぼ未記入の状態だったが，学習後は，かなり情報を読み取った会話の内容を考えることができていた。今後も，情報を正しく読み取り，活用できる場の工夫は大切であると考える。

指導の実際【４年生】

１．単元名　　相手に話の中心が伝わるよう，構成を考えて話そう
（主な学習材：「写真をもとに話そう」）

２．つけたい力　　話の中心が明確になるよう構成を考え，話し方を工夫しながら発表する力

３．言語活動　　写真を見て，どのようなことが読み取れるか，想像できるかをお互いに発表しよう。

【手立て①　話すこと】

タブレットの活用

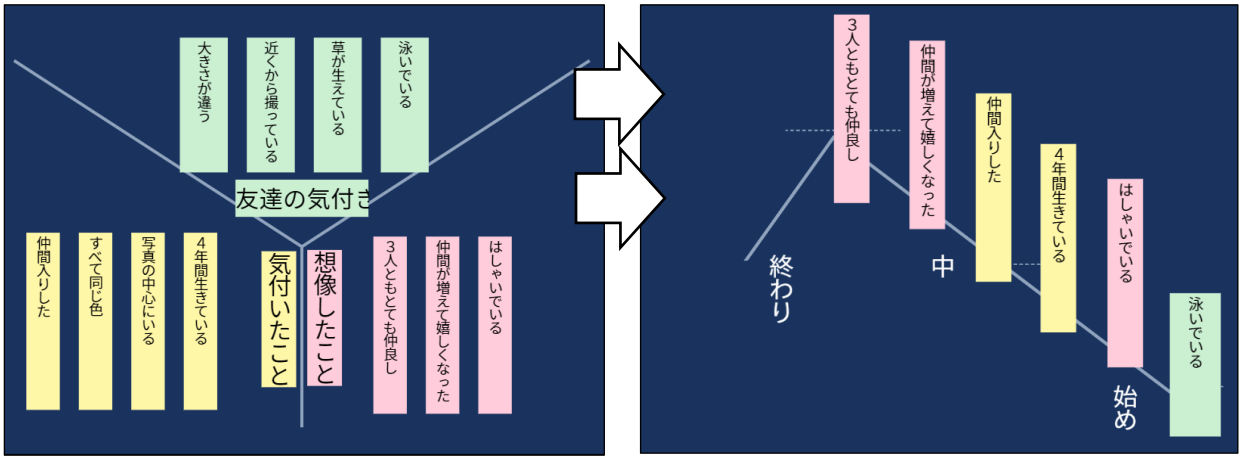
〇Ｙチャートを使って，写真から読み取ったメモを整理する。

・写真から読み取った情報を整理するため，Ｙチャートで「気付いたこと」「想像したこと」「友達の気付き」などの項目に分類することで，写真を多面的に捉えることができると考える。

〇プロットダイアグラムを使って，話の中心と構成を組み立てる。

・Ｙチャートで作ったメモの中から，話の中心になるものを決める。その後，理由付けとなるメモを選び，全体の構成を組み立てていくことで，伝えたいことを明確にできると考える。

「３匹の金魚」の写真を見ながら



写真から読み取った情報を整理するため，Ｙチャートに「気付いたこと」「想像したこと」「友達の気付き」の項目を割り当てながら分類した。そのため，写真を多面的に捉えることができた。

Ｙチャートで作ったメモの中から，話の中心になるものを決めた。その後，理由付けとなるメモを選び，プロットダイアグラムを活用して，全体の構成を組み立てた。伝えたいことを明確にできたことで，児童は自信をもって発表することができた

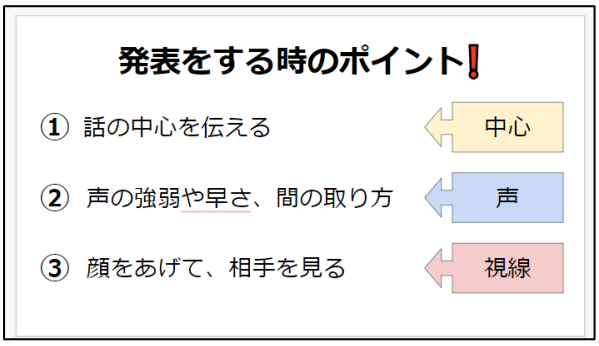
話すための意識をもたせる

○「発表する時の観点」を提示する。

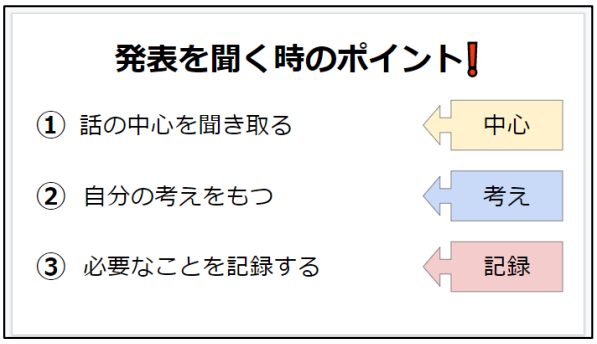
○「発表を聞く時の観点」を提示する。

・それぞれの観点を提示し，改善点を見つけやすくすることで，「話すだけ」「聞くだけ」ではない双方向の活動になると考える。

＜発表する時のポイント！＞



＜発表を聞く時のポイント！＞



全体で発表する前に，話す様子を友達に撮影してもらい，改善点を確認した。その際，「ポイント」を確認してから活動することで，改善点を見つけやすいようにした。規準が明確になったことで，児童同士の話し合いが活性化した。また，動画の視聴を通じて，自分の様子を客観的に捉えることにより，「自分意識」を高めることができた。

構成メモを作成する様子

・すきまにいる
・窓に映っている
・自分を見て遊んでいる

・泳いでいる
・４年間生きている
・仲間が増えてうれしい

・立っている
・仲間がほしい
・かわいい

発表の様子

みなさん、元気に泳ぐ、この金魚を見てください。
一番大きい金魚は、四年間生きています。他の二匹は、後から仲間入りしました。
大きい金魚は、仲間が増えてとってもうれしそうに、前よりはしゃいで泳いでいるように見えます。
三匹とも、いつも仲良しです。

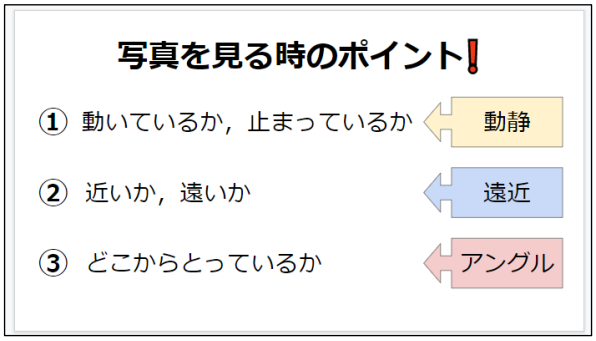
【手立て③　教材・教具】

子どもが意欲的に取り組めるような教材教具や場の設定を工夫する

〇写真から情報を得るための具体的な視点を知る。

・児童の手元に教科書の拡大写真を用意し，比較しながら共通点や相違点を見つけられるようにすることで，情報を得るための視点に辿り着けると考える。

＜写真を見るときのポイント！＞



〇児童がとっておきの一枚で活動することにより，意欲の継続を図る。

・一度目の学習を生かし，用意する写真には物語性をもたせることで，「気付いたこと」「想像したこと」「話の構成」などを膨らませることができると考える。

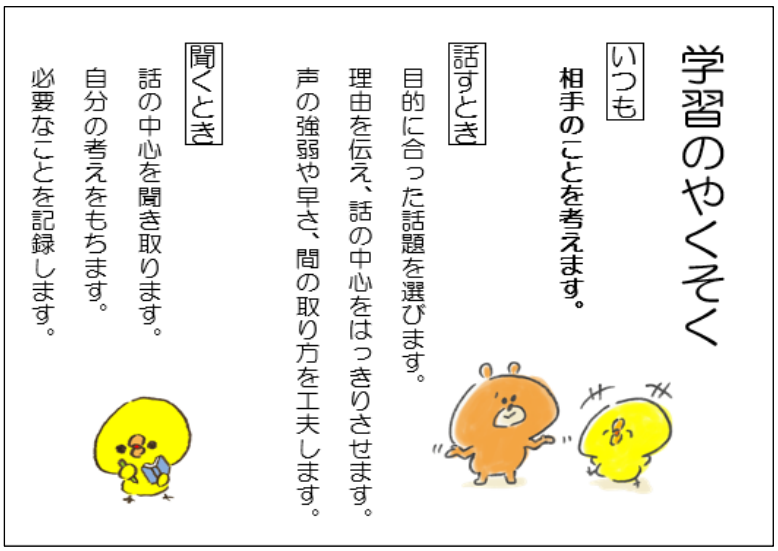
指導計画における２～３時では，教科書の写真を活用することで，学習の方向付けをすることができた。４～５時では，児童がとっておきの一枚で活動することにより，意欲を高めながら学びのスパイラルを形成することにつながった。２サイクル目は，児童が学習の流れを理解していたので，自力で学習を進めることができた。

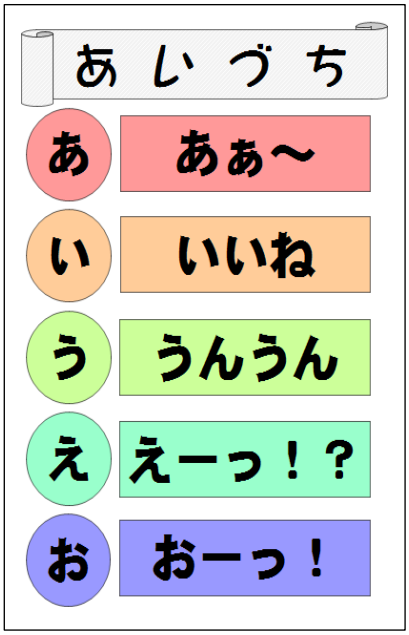
☆　学習の成果

○「話の中心」を明確にしながら，伝えたり聞いたりすることをテーマに学習へ取り組んだ。そのため，児童は「話の中心」を捉えようとする意識が育った。発表する時だけでなく，文章の読み取りや作文においても，しっかりと意識付けされている。

○掲示物「学習のやくそく」における，【話すとき】【聞くとき】の項目は，児童に浸透してきた。授業後の感想では，「声の大きさ」「声の早さ」「間の取り方」について触れているものが多かった。折に触れて，掲示物を活用することにより，児童が自信をもって「できる」と言えるようにしたい。

○本単元を通じて，児童は主に音声で構成されるスピーチが，思考ツールを活用することで視覚化できることを知り，構造的に捉えることができるようになった。そのため，日常生活においても話の順序を考えるようになり，相手に伝わりやすく話せるようになった。





指導の実際【５年生】

1	単元名	島の友達に伝えよう「船穂小学校のよさ」 （主な学習材：「ひみつを調べて発表しよう」）
2	つけたい力	資料を効果的に活用しながら伝えたい内容を聞き手にわかりやすく伝え， 互いの考えや思いを伝え合う力
3	言語活動	島の学校に船穂小のよさを発表したり，意見交換をしたりしよう。

【手立て①　話すこと】

話すための意識をもたせる

１．相手意識をもたせる。（沖縄の離島の５年生に）

１学期から，総合的な学習の時間を中心に，沖縄の島の友だちとの交流活動に取り組んできた。社会科の国土の学習から，児童が沖縄の離島に興味をもったことから，沖縄の小学校と交流をはじめる。交流する離島の学校も，本校と同じような少人数の学校であり，お互いに交流し合うことで，他県への興味関心を高めたり，コミュニケーションの力を身につけたりすることができると考えた。

２．目的意識をもたせる。（千葉県の船穂小学校の良さを伝える）

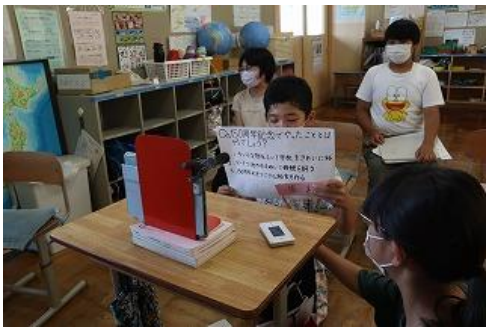
本単元では，伝えたいことを明確にするためには，相手意識や目的意識をもつ必要があると考え，沖縄県立北大東島小中学校の５・６年生の友達に向けて船穂小のよさをプレゼンテーションで伝えることを単元のゴールとした。

３．場面意識をもたせる。（一人→グループ→学級，話し合う活動）

児童の学習意欲が持続するようにする工夫として，児童自身が発表するテーマを考えてプレゼンテーションの資料作りの計画を立てたり，離島の小学校と何度か交流をもつようにしたりした。少人数の班で話し合いながら作成した。また，プレゼンテーションの資料作りは，総合的な学習と関連付けながら行い，活動時間を確保するようにした。

少人数の班活動

船穂小のいいところはどこかな？みんなにアンケートを取ってまとめよう。



タブレットの活用

４．方法意識

交流を通して，オンラインを活用することで，遠くの地域との交流ができる喜びを知ると共に，オンラインでは，実際に会って話すよりも，相手に思いを伝えることや，聞き取ることが難しいことがわかった。今回の国語科の授業を通して，より相手を意識した話し方や聞き方をするためにスライドを活用して表現方法を工夫したり，言葉を短くまとめたりする等，児童が相手に伝えることを意識している様子を感じることができた。

５．評価意識

・子どもたちによる評価……グループや学級でアドバイスを出し合った。オンラインでは，うまく伝えづらいこともあり，言葉とスライドでどのようにしたらよいかの話し合いが何度も行われた。

・教師による評価……話し合いに支援が必要なグループの支援に回ったり，録画をしたり，相手が本当に知りたい内容であるかなどを意識しながら評価した。

本時の児童の作成スライド

【チーム A】テーマ：船穂小のよさ

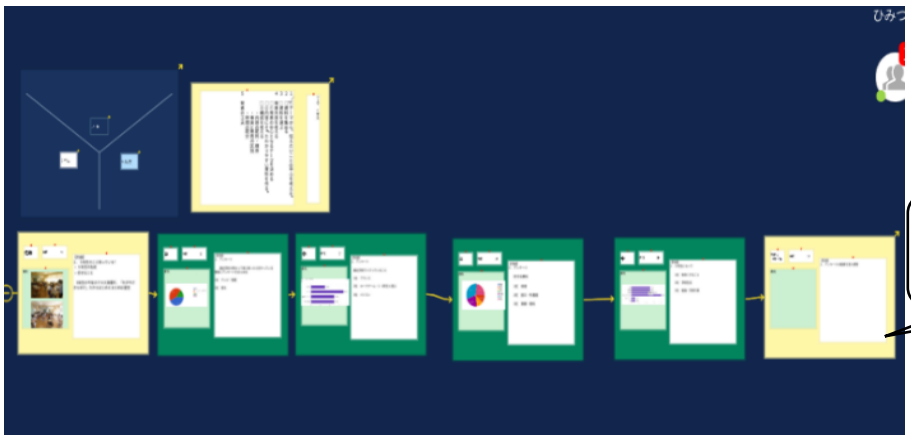
【チーム B】テーマ：船穂小の５年生について

【手立て②　聞くこと】

タブレットの活用

ロイロノートの付箋機能を活用して構成メモを整理し，他の班の児童とプレゼンテーションの内容を共有した。共有することで，考えが広がったり深めたりすることができると考えた。

構成メモ



大まかなスライド内容の計画を立てました。

共有機能を活用して，班の友だちと話し合いながら作る。

さらに，発表リハーサルを行い，自分の映像を見て検討したり他の班の友達に発表を聞いてもらったりして，自分たちの発表を振り返る場を設けた。

構成メモに整理することで，内容を整理する手立てとなった。また，動画で撮影することで，実際の交流の様に緊張感をもって発表練習に取り組み，相手の立場に立って自分たちの発表を振り返ることができた。

オンラインは，思った以上に伝わりづらいことがわかり，言葉とスライド，紙の資料をうまく組み合わせながら伝えることなどを，工夫していった。

どんなふうに話したら伝わるかな？

映像を撮影して，振り返りに活用しよう。

☆　学習の成果

【児童の変容】(調査人数　８名)

内容	A 男	B 男	C 女	D 男	E 女	F 男	G 女	H 女
1　友達と話し合いをしながら活動することは好きですか。								
	△ ↓ ○	△ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○
[理由]	(好き) ・友だちと話し合うと簡単になる　・話すことが好き　・楽しい　・意見を出し合える ・協力できる　・自分の考えを伝えられる							
2　自分の考えを相手にわかってもらうために工夫しながら伝えていますか。								
	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	△ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○	○ ↓ ○
3　発表することは好きですか。								
	△ ↓ ○	△ ↓ △	○ ↓ ○	○ ↓ ○	△ ↓ △	△ ↓ △	△ ↓ △	○ ↓ ○
[理由]	(好き) ・相手に知ってもらえるから (好きではない) ・恥ずかしい　・緊張するから							

【考察】

授業後の意識調査から，「友だちと話し合いをしながら活動することは好きですか。」では，全員が「好き・どちらかといえば好き」と答えており，友だちと話し合う事で考えが深まるメリットを実感していることがわかった。「自分の考えを相手にわかってもらうために工夫しながら伝えていますか。」でも，全ての児童が「好き・どちらかといえば好き」と答え，相手に伝わることを意識して活動に取り組むように意識が変化したことがわかった。

○構成メモやプレゼンテーションでの発表は，児童の「話す・聞く」の活動に効果的なツールだった。

○相手意識を高めるために，他の地域の同年代の友だちに向けて活動したことは，児童の意欲を高めた。

5　日々の授業や学校生活の場面で活かす「話すこと・聞くこと」

（1）　研究主題を日常へ

「互いの思いや考えを主体的に伝え合う児童の育成」
～相手にわかりやすく伝えたり，内容を理解しながら聞いたりする活動を通して～

校内授業研究会を中心に研究していたが，その実践は年数回の授業研究会で終始するものではない。研究授業以外の国語の授業や他教科，そして日常の生活の場面でも少しずつ実践を積んでいくことで，「互いの思いや考えを主体的に伝え合う児童の育成」が図られると考える。本校では，研究主題を見据え，小規模校であるために学年を越えて話すこと・聞くことの取り組みを多く行うようにしている。

（2）　３年生国語での実践

①　「絵文字で表そう」　全校児童が活用できる絵文字を考え，さらにわかりやすい説明を考える。

絵文字で何を伝えたいのかをもとに，色や絵で表す物，大きさ等について話し合いを重ねた。

発表の練習の中に，複式学級の４年生からの助言を受ける場を設けた。それを生かせるようにタブレットで発表を録画し，話し方の改善を行った。

全校での発表へ

話し合いを深めるために

話し方･聞き方のスキルを学ぶことにとどまらず，いろいろな場で実践することを大切にする。

② 「船穂小の歴史について発表しよう」（学習材「町の行事について発表しよう」）
船穂小学校の歴史を，資料をもとに全校児童に話すという相手意識をもって取り組む。

150 年間の学校の歴史を調べて話す

真剣に聞き，感想を述べる児童もいた。

伝えたい内容に合う資料を選び，提示した。提示のタイミングや場，方法などを，聞き手の視点で見直し，発表練習をした。

（3） 3・4年生の理科での実践

他教科で活かす

③ 4年生「ぼくの木　わたしの木」のまとめの発表

話し手は
他学年にもわかりやすい説明をする。

聞き手は
クロームブックやワークシートにメモを取る。

3年生「理科ランド」

３年生は自分たちが考えた理科のおもちゃの仕組みや，使い方を４年生に説明して交流した。３年生は自分たちが作った物をより理解してもらおうと話し，４年生は相槌を打ったり，わからないことを質問したりする様子が見られ，理解したい，そして楽しく遊びたいという姿が見られた。

① 理科ボランティアの先生の説明を聞く。（話を聞いて，質問する）

校内の理科特設コーナーで月１～２回，理科のさまざまな説明や学区の生き物や環境の様子の説明を聞く場が設けられている。教師の話に対し，質問や感想を話したり，メモを取ったりしている。難しい内容にも，一生懸命質問をしてわかろうとする児童が多い。

（４） ５年生が放送で「生活改善の提案」を行う。

「廊下や階段を走らないようにするためには」「忘れ物をなくすためには」等，よりよく学校生活を送るための提案を作文に書いて，日替わりで５年生全員が全校児童に呼びかけた。どの学年にも共感を抱くことができるようなテーマ設定をし，１年生にもわかりやすいように話した。

（５）仮説との関連

小規模校の，少人数学級で日々生活しているため，学級内だけでは話したり聞いたりする力の深まりは弱いとも考える。そのため，本校では縦割り活動や授業での学年交流を積極的に取り入れている。これは研究仮説にある「相手，目的，条件を踏まえて話したり聞いたりする場を設ければ…」に繋がる活動であり，学校生活のさまざまな場面で取り入れている。上記にて提示した実践活動はほんの一部であるが，日々の取り組みによって「内容を理解して聞いたり話したりできる」児童の育成に繋がると考える。

また，全国学力学習状況調査では，国語の力を他教科でどう活かすかということも問われているため，本校でも国語で身に付けた力を他教科や学校生活の場で活かしていきたいと考えている。

小規模特認校として日々，小さな活動ではあるが，転入してきた児童の心を耕す活動にも繋がり，実践の成果が表れ始めている。子ども達同士が話しやすい雰囲気を作ること，そして日々の学校生活全般において，教師も子どもの話に耳を傾けることが大切であると考える。

6　詩を通しての全校での取り組み・話すことや聞くことの実践

（1）　金子みすゞの詩を月替わりで学級や校内に掲示し，音読する。

各教室に掲示

校内の「金子みすゞコーナー」

各学級や廊下に金子みすゞの詩を掲示し，図書委員会の児童が選んだ詩も掲示している。

また，音読を家庭でも行っている学年も多く，保護者と詩の内容の解釈について話し合う家庭も見られている。放送委員の児童が今月の詩を朗読し，全校児童が聞いたり一緒に口ずさんだりと，親しんでいる。

（2）　特別支援学級の児童

金子みすゞの詩は内容や気持ちが入りやすいため，文章を見たり読んだりすることが苦手な特別支援学級の児童たちも好んで口ずさみ，暗記したり気持ちを考えたりしやすい。

授業参観では，衣装や小道具，振り付けを交えて「相手にわかりやすく伝える話し方」を意識して発表した。

（3）　矢崎節夫先生をお呼びして

５年生「みすゞ探しの旅」，１年生「けむりのきしゃ」を執筆した矢崎節夫先生に昨年度来校していただき，全校で音読している金子みすゞの詩の解釈やことばの持つ意味等について話をしていただいた。

話を聞くことの実践編として，国語科において２つの学年で親しみのある矢崎節夫先生をお呼びした。子どもたちにとってわかりやすい言葉で話をしてくださったわけではあるが，言葉一つ一つの持つ意味の重要性や話し方や伝え方・伝わり方の話などでは，我々教師たちの貴重な勉強ともなった。また，６年生が５年時に「みすゞ探しの旅」で作成した作品を通しての交流や，学校図書館での１年生との交流も図ることができた。今年度も来校していただき，昨年度よりもさらに研究主題を意識した話すこと・聞くことの学習の一環とする予定である。

「わたしと小鳥とすずと」の解釈

詩を表現する児童

話を真剣に聞く児童

感想や質問を伝える児童

６年生児童との交流

１年生児童との交流

7　成果と課題

研究仮説　相手や目的・条件を踏まえて話したり聞いたりする場を設ければ，内容を理解して聞いたり話したりできるであろう。

（1）成果と課題

手立て①【話すこと】

○話の中心を明確にすることで，児童が発表するときに中心を捉えようと意識するようになり，さらに作文を書くときや，文章の読み取りでも中心を考えるようになってきた。

○話す対象や単元のゴールを明確にし，相手意識をもって活動したことで，伝える内容や話し方を考える児童が多く見られた。単元を通して意欲保持につながった。

○構成メモを活用することで，話の内容が整理されるので，話すことに有効なツールであった。

●根拠や理由をもとにした主張ができるようにメモ作りの工夫が必要である。

●相手意識を考える時に，相手が何を求めているか，何を知りたいのかを，アンケートなどを活用して内容を考える視点が必要だった。

手立て②【聞くこと】

○児童の発表を聞く際に構成メモを活用することで，質問や感想を話しやすくなった。

○聞き方や学習の約束の掲示をして，国語以外の学習でも活用した結果，意識して話を聞く児童が増えた。

●相手の話をさらに詳しく引き出すための質問を考えたり，聞いたりする手立てが必要である。

●相手の意見を聞いて自分の意見と比べることが難しく，比較して聞かせる工夫が必要である。

手立て③【教材・教具の工夫】

○教室の前と後ろをそれぞれ使ってグループで話し合う空間，全体で話し合う場，個別の空間と場の設定をしたことで，児童が効果的に話したり聞いたりすることができた。

○タブレットを適宜活用させることで，メモや録音機能を通して児童が自分の話し方を見直したり整理したりすることに有効だった。

○話型や５Ｗ１Ｈや話し方聞き方の掲示物や教師の示す手本を参考にして，どのような話し方や聞き方が相手に伝わりやすいのかを考えることができた。

●テーマ選びが重要である。教師側が投げかける課題，そして児童の意欲が継続できる課題を吟味して考える必要がある。

●掲示物の効果はまだ身についてはいない。どの学習でも意識させたり今後も継続して指導していったりする必要がある。

（２）主題に迫ることができたか

国語科の研究を始めて１年あまり。１年間という短い中で，さらに「話す・聞く」の単元は少ないので，国語科全般でも他教科でも，そして学校生活のさまざまな場面で取り組む機会を作るようにした。実際に単元構成を考えたり，手本を示したり，掲示物を使ったり，タブレットの有効活用を考えたりと，教師が取り組むことで児童の力がついていくことがわかった。そして，小規模校の良さを生かして，教室の空間の使い方を工夫したり，他校と交流を図ったり，矢崎先生のような方から話をしていただいたりする活動を通しても，主題に迫っていけるようにと考えた。

また，本校の児童はお互いが短い言葉で話しても通じてしまうので，説明や相手意識が薄いとする課題があった。教師側が意識して取り組むことにより，同級生に対して，全校児童に対してなど，相手意識をもって話そうとする児童が増えてきたし，全校児童で話をする人を応援する気持ちで聞こうとする児童も増えた。

昨年度は小規模特認校となるにあたり，毎日のように学校見学や体験入学の児童が訪れ，そして転入児童が入ってくるという中で「相手にわかりやすく伝える話し方を身につける」また「内容を理解して聞こうとする」ことの大切さをより感じる１年であった。

今後も主題に迫っていけるように日々，職員一同，研鑽を積んでいきたいと考える。

＜参考文献＞

長谷浩也　「話すこと・聞くこと」のパーフェクトガイド　2019 年（明治図書）
大越和孝・成家亘宏・藤田慶三　編著　「話すこと・聞くこと」の言語活動例の展開　2011 年（東洋館出版社）